

Integrated Report

2022 統合報告書



明治グループの目指す姿・健康価値

グループ理念

私たちの使命は、「おいしさ・楽しさ」の世界を拡げ、
「健康・安心」への期待に応えてゆくこと。

私たちの願いは、「お客さまの気持ち」に寄り添い、
日々の「生活充実」に貢献すること。

私たち明治グループは、「食と健康」のプロフェッショナルとして、
常に一步先を行く価値を創り続けます。



お客さまの こころとからだの健康

- 健康寿命の延伸
- 健康で豊かな生活
- おいしさ・楽しさ
- 製品における安全・安心



meijiらしい健康価値とは？

私たちが目指しているのはCURE（なおす）・CARE（まもる）・SHARE（わかちあう）によって、すべてのステークホルダーに「meijiらしい健康価値」をお届けすることです。CURE・CAREとは、赤ちゃんからお年寄りまであらゆる世代の方々に向けて、こころとからだに良い変化を起こすスイッチをたくさん入れること。そして、一人一人により多く、より長くサポートしていくことで、健やかで幸せな笑顔にすること。SHAREとは、その笑顔を周りにいらっしゃる大切な人たちにまで、広く伝播させていくこと。こうして、一人の健康をみんなの笑顔につなげていくことが、私たちが考える「meijiらしい健康価値」です。



健康価値をすべてのステークホルダーに提供していきます

社会の健康

- 豊かな社会づくり
(地域社会とのパートナーシップ、社会貢献活動)
- 持続可能な調達活動
- 取引先との相互信頼関係の構築

従業員の健康

- 一人一人の力が発揮できる職場環境
- 心身ともに安心して働くことのできる職場環境



SHARE
わかちあう

株主・投資家

- 持続的な成長
- 健全な財務基盤、資本の効率化、安定した利益還元

健康にアイデアを

meiji

CURE
なおす



CARE
まもる



地球環境の健康

- 環境との調和
(環境保全、環境負荷の低減、生物多様性の保全)
- 持続可能な調達活動



編集方針

明治ホールディングス（株）は、2018年よりアニュアルレポートを「統合報告書」に代えて編集・発行しています。創業100年を超え、明治グループは新たな成長ステージに挑んでいます。本報告書では、持続的な成長のための「価値創造ストーリー」を軸に、財務・非財務情報などを一体的に編集してお伝えいたします。

参考ガイドライン：

- ・IFRS財団 統合報告フレームワーク
- ・気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）

「統合報告書2022」のご利用にあたって

- ・本報告書は、2021年度（2022年3月期）の実績に基づいています。一部、2022年度（2023年3月期）以降の活動内容も含まれます。
- ・記載している内容は、当社が「統合報告書2022」作成時点で入手可能な情報から編集したものです。従って、実際の結果が当社の見通しと異なる可能性があることをご承知ください。なお記載情報は、特に示しているものを除き、2022年8月現在のものです。
- ・2021年度より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しています。特に記載のない限り、2020年度までは当該基準の適用前、2021年度以降は適用後の情報です。

明治グループの情報開示

統合報告書には、当社およびステークホルダーの方々にとって特に重要度の高い情報を掲載しています。独立監査人の監査報告書等が付された財務諸表等是有価証券報告書をご覧ください。そのほか、明治グループに関するより詳細な情報を入手されたい場合は、当社の各種ウェブサイト併せてご活用ください。



統合報告書



持続的な企業価値の向上を目指す明治グループのさまざまな取り組みについて、ストーリー性をもって記載し、理解を深めていただけるように構成しています。

 統合報告書 ▶

ウェブサイト



会社概要、財務情報、コーポレート・ガバナンス、サステナビリティ関連情報、最新のニュースなど、各項目の詳細が網羅的にご理解いただけるように構成しています。

IR・投資家情報

<https://www.meiji.com/investor/>



- 経営計画 ▶
- IRライブラリ ▶
- 個人投資家の皆さまへ ▶
- 財務ハイライト ▶
- 株式情報 ▶
- コーポレート・ガバナンス ▶
- 事業等のリスク ▶
- IRカレンダー ▶

明治グループについて

明治グループの理念やスローガン、経営体制、事業領域、沿革などを詳しくご紹介しています。

 明治グループについて ▶

明治ホールディングス（株）

<https://www.meiji.com/>

（株）明治

<https://www.meiji.co.jp/>

Meiji Seika ファルマ（株）

<https://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>

KMバイオロジクス（株）

<https://www.kmbiologics.com/>

サステナビリティ情報

<https://www.meiji.com/sustainability/>



- トップコミットメント ▶
- サステナビリティの考え方 ▶
- こころとからだの健康に貢献 ▶
- 環境との調和 ▶
- 豊かな社会づくり ▶
- 持続可能な調達活動 ▶
- ポリシー・宣言 ▶
- ESGデータ集 ▶

目次

明治グループについて

- 01 明治グループの目指す姿・健康価値
- 02 編集方針 / 明治グループの情報開示
- 03 目次
- 04 2026ビジョン達成へのプロセス
- 06 At a Glance
- 08 価値創造の歴史と市場プレゼンス

トップメッセージ

- 12 CEOメッセージ
- 18 CFOメッセージ
- 20 2023中期経営計画の概要と明治 ROESG

価値創造プロセス

- 24 明治グループの価値創造プロセス
- 26 明治グループのバリューチェーン
- 28 財務・非財務ハイライト (主要指標の推移)

2023 中期経営計画の進捗

- 30 食品セグメントの事業戦略
- 34 医薬品セグメントの事業戦略
- 38 サステナビリティ戦略

持続的な価値創造を支える取り組み

- 42 人財マネジメント
- 43 ダイバーシティ & インクルージョン
- 44 人財開発
- 45 健康経営 / 従業員エンゲージメント
- 46 知的財産マネジメント
- 47 食品セグメント
- 49 医薬品セグメント
- 50 自然との共生
- 51 気候変動への取り組み
- 54 生物多様性の取り組み
- 56 サプライチェーンマネジメント
- 58 TCFDへの取り組み
- 59 人権の尊重

コーポレート・ガバナンス

- 60 役員一覧
- 62 取締役・監査役の役割
- 64 社外役員鼎談
- 68 コーポレート・ガバナンス
- 78 リスクマネジメント
- 81 コンプライアンス

財務・非財務パフォーマンス

- 82 財務・非財務ハイライト (11年間サマリー)
- 84 非財務パフォーマンス
(マテリアリティへの取り組みの進捗)
- 87 エネルギー使用量、CO₂排出量、水使用量、
および廃棄物排出量の第三者保証

会社情報

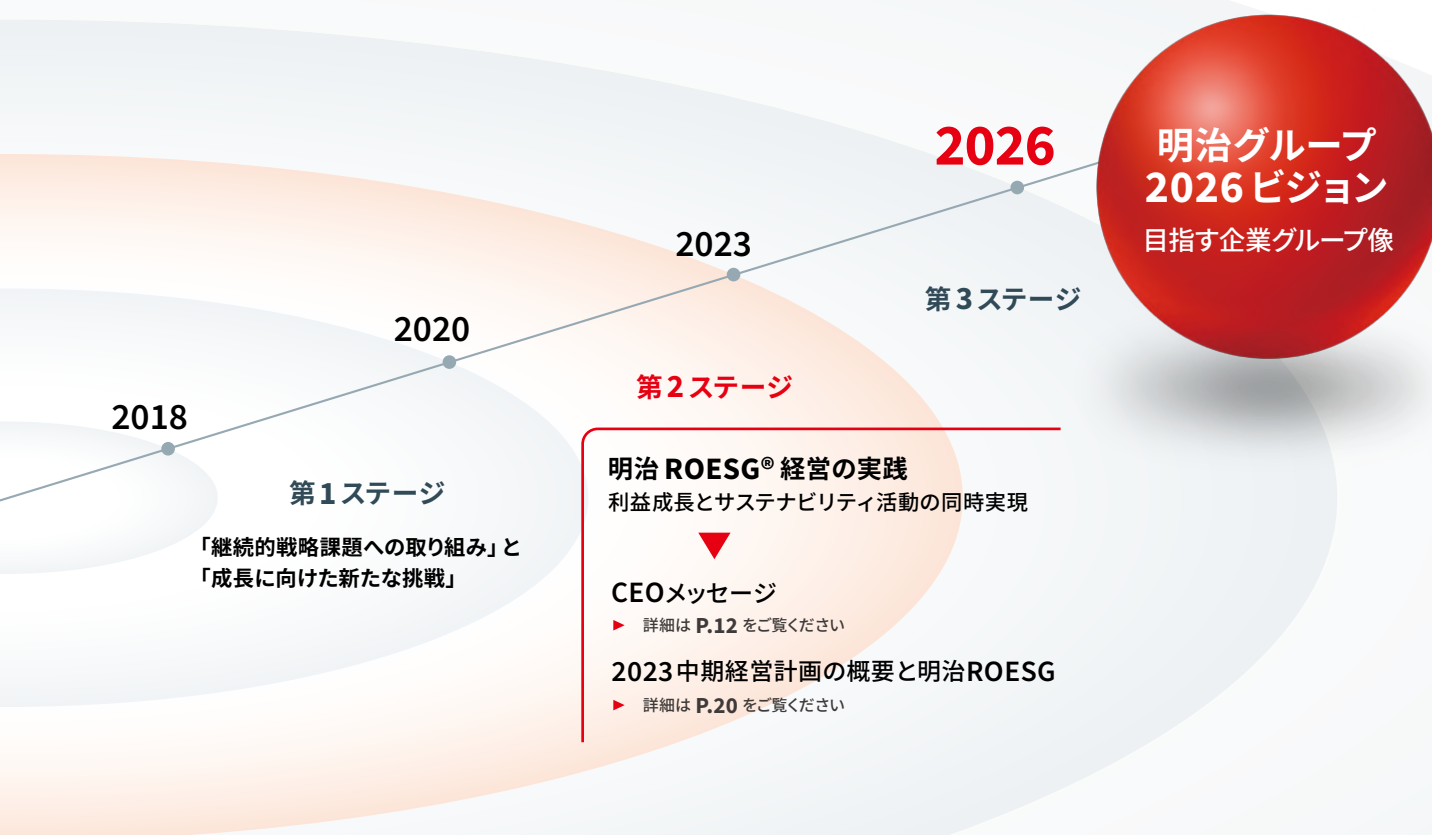
- 88 事業の拠点
- 90 会社情報・株式情報
- 91 表紙作品について / 編集後記

2026ビジョン達成へのプロセス

明治グループが持つ強みを最大化し、さらなる成長を果たしていくための指針として、2018年度より「明治グループ2026ビジョン」を掲げています。これは2026年に向けて目指すべき企業グループ像を示したものであり、経営計画を着実に遂行してビジョンを実現し、中長期的な企業価値の向上を図ります。

ビジョン実現へのロードマップ

「明治グループ2026ビジョン」の実現へ向け、計3回の中期経営計画を策定しています。2018年度から第1ステージがスタートし、2020年度をもって終了。現在は、第2ステージとなる「2023中期経営計画」を実行中です。



注目すべき経営環境

2026年に向けて、明治グループの事業に影響を及ぼすと考えられる社会動向を右に示しました。2020年より新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大したことによって、事業環境はきわめて不透明なものとなりました。しかしながら、明治グループとしてはこうした事業環境に即応しながら、「明治グループ2026ビジョン」の実現に向け適切なマネジメントを行い、ステークホルダーの期待に応えてまいります。

高齢化による社会構造の変化

- 日本では、2025年には人口の30%が65歳以上に
- 「高齢化の進行」は世界共通の課題

健康意識・予防意識の高まり

- 生活環境や食生活の変化による「病」の増加
- 予防や健康寿命の延伸に対する意識向上

世界の中間層増大

- 中国・インドを中心とした新興国の所得水準向上
- 嗜好品・健康関連製品ニーズの増大

明治グループ 2026ビジョン

目指す企業グループ像

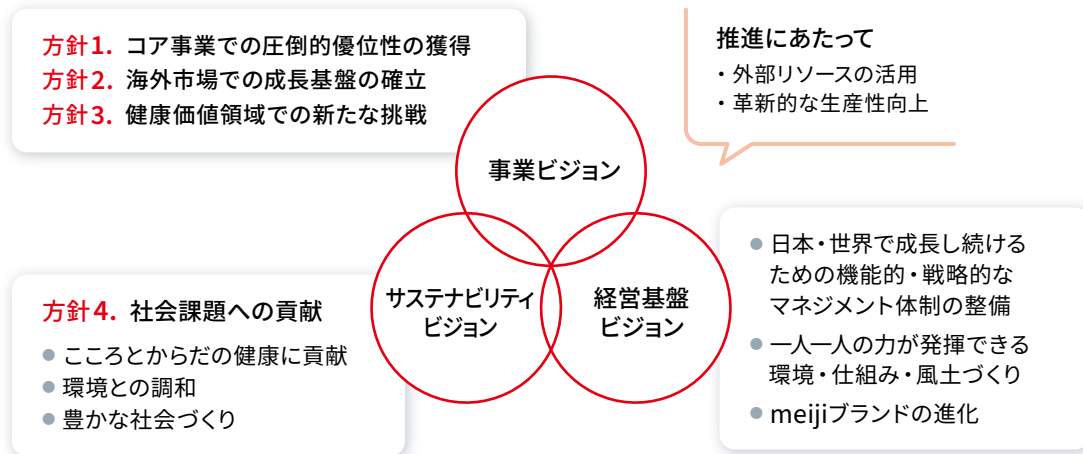
明治グループ100年で培った強みに、新たな技術や知見を取り入れて、「食と健康」で一歩先を行く価値を創造し、日本、世界で成長し続ける

重点方針

1. コア事業での圧倒的優位性の獲得
2. 海外市場での成長基盤の確立
3. 健康価値領域での新たな挑戦
4. 社会課題への貢献

営業利益成長率	1	桁台半ば以上(年平均)
海外売上高比率	20	%を目指す
ROE	10	%以上を維持

明治グループ2026ビジョンの構成



第2ステージ 2023 中期経営計画

▶ 詳細は P.20 をご覧ください

コンセプト

明治 ROESG® 経営の実践

利益成長とサステナビリティ活動の同時実現

重点課題

1. 事業戦略

食品セグメント

- 1) コア事業の成長力の回復
- 2) 海外展開の強化

医薬品セグメント

- 1) Meiji Seika ファルマ(株)・KMバイオロジクス(株)の一体運営推進(ワクチン事業の強化)
- 2) CMO/CDMOの強化

全 体

新領域への挑戦

2. ROIC活用による経営管理体制強化

3. 成長投資の継続と強固な財務基盤構築の両立

4. サステナビリティ2026ビジョンの着実な実行

※「ROESG」は一橋大学教授・伊藤邦雄氏が開発した経営指標で、同氏の商標です

At a Glance

私たちは、食品事業を行う「株式会社 明治」、医薬品事業を行う「Meiji Seika ファルマ株式会社」および「KM バイオロジクス株式会社」から成る企業グループです。人々の毎日の生活に欠かすことのできない乳製品・菓子・栄養食品・医薬品など幅広い分野の製品を通して、「おいしさ・楽しさ」の世界を拡げ、「健康・安心」への期待に応えていくことを使命に事業を営んでいます。

グループ体制図 (2022年3月31日現在)



2021年度(2022年3月期)の業績

売上高

1兆130億円

前年度比
15.0% DOWN※

※ 前年度の売上高にも収益認識基準を適用した場合0.6%UP

医薬品セグメント

19%

食品セグメント
81%

営業利益

929億円

前年度比
12.4% DOWN

医薬品セグメント

20%

食品セグメント
80%

ROE

13.5%

前年度比
2.4pt UP

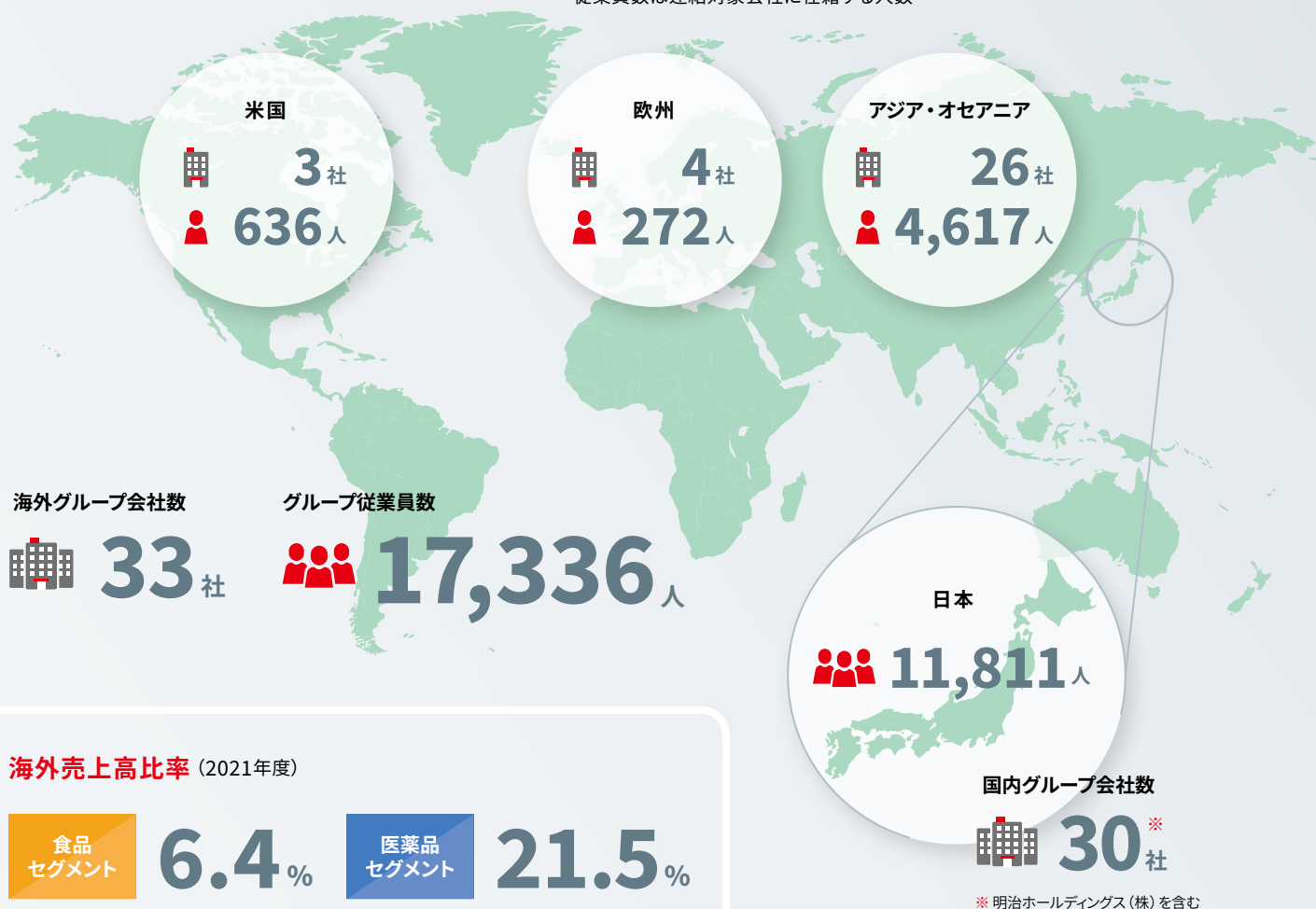
1株当たり当期純利益

607.24円

前年度比
34.2% UP

グループ会社と従業員数（2022年3月31日現在）

グループ会社数は連結対象および持分法適用会社数
従業員数は連結対象会社に在籍する人数



海外売上高比率（2021年度）



ESGの外部評価

明治グループは、事業を通じた社会課題解決に積極的に取り組むことが、持続的な成長につながると考えています。「2023中期経営計画」では最上位の経営目標に「明治ROESG」を掲げ、利益成長とサステナビリティ活動の同時実現を目指しています。その取り組みは外部から高く評価され、国内外のESGインデックスの組入銘柄として採用されています。

- P.20 2023中期経営計画の概要と明治ROESG ▶
- P.38 サステナビリティ戦略 ▶

Member of Dow Jones Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA



ACCESS TO
NUTRITION
INITIATIVE



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



価値創造の歴史と市場プレゼンス

明治グループはすでに 100 年を超える歴史を重ねています。この間、人々の健康に関わる社会課題をイノベーションによって解決し、いままでにない商品を送り出すことで大きな市場シェアを獲得してきました。これからも「meijiらしい健康価値」を創造することで、成長を持続させていきます。

食品事業

1920



1923

育児用粉乳「パトローゲン」誕生

いかに母乳に近い粉ミルクを作るか。1923年に販売開始した「パトローゲン」以来、一貫して赤ちゃんの栄養不足を解決したいという思いに基づいて、開発・改良を重ねています。

1926

「ミルクチョコレート」発売



西洋菓子の普及を目指していた創業期からの基幹商品。「ミルクチョコレート」の発売後もチョコレート商品を続々と世に送り出し、「チョコレートは明治」の礎を築いてきました。

1928

「明治牛乳」発売



1928年に牛乳の殺菌が義務化。明治は、牛乳営業取締規則の認可を受け、生乳の低温殺菌処理プラントを完成。「明治牛乳」を製造、発売しました。

1960

ヨーグルト

Since 1950

国内シェアNo.1 38.6%

出典：2021年度インテージ社SRIデータ

1973

「明治ブルガリアヨーグルト」発売



本場・ブルガリアのプレーンヨーグルトを目標に開発。独自技術「まろやか丹念発酵」を生み出すなど、常に進化を続けています。



1975「きのこの山」発売

1979「たけのこの里」発売

自然や故郷をイメージした商品で発売直後から大ヒット。チョコスナックという新ジャンルを開拓しました。

1980

粉末・
顆粒プロテイン

Since 1980

国内シェアNo.1 34.3%

出典：2021年度当社調べ



1980

スポーツ用プロテイン
「ザバス」シリーズ発売

アスリート向けにスポーツ栄養学に基づいて開発。現在では運動愛好者など幅広いユーザーに向けて商品ラインアップを拡大しています。

医薬品事業

1946

抗生物質

「ペニシリン」の製造開始



第二次世界大戦中から研究を進め、1946年に製造許可取得後、「ペニシリン」の製造を開始。その後、1950年に「ストレプトマイシン明治」、1958年「カナマイシン明治」、1975年「パニマイシン」などの抗生物質を開発。戦後から高度成長期の日本で、多くの人命を救いました。

インフルエンザ
ワクチン

Since 1972

国内シェアNo.1 35.5%

Copyright © 2022 IQVIA.

出典：IQVIA 医薬品市場統計

JPM2022年3月MATをもとに作成。

市場の範囲は当社の定義による

※ 無断転載禁止

1972

「インフルエンザ
HAワクチン」発売



当時のインフルエンザワクチンの有効性や安全性の改善を目的に開発。特に高リスクの高齢者、小児の感染・重症化の予防に貢献しています。

1988

遺伝子組換えB型肝炎ワクチン
「ビームゲン」発売



遺伝子組換え技術を応用して開発された日本初の遺伝子組換えB型肝炎ワクチンです。2016年10月から定期接種化されました。

1989

ベンゾジアゼピン系
抗不安薬「メイラックス」発売



高齢化社会の進展に伴い、抗生物質のみならず中枢神経薬の分野の製品ラインアップを強化しました。

※1932年にプロセスチーズの製造を開始

**カマンベール
チーズ** Since 1992
国内シェアNo.1 **38.8%**

出典：2021年度当社調べ

1992 「明治北海道十勝チーズ」発売
「明治北海道十勝カマンベールチーズ」発売

北海道の十勝地域が育んだ生乳で開発。新たなチーズ文化の定着を目指しています。

1994
「明治エッセルスーパーカップ
超バニラ」発売

手頃な価格でおいしく、たっぷり。多彩なフレーバー展開も魅力の商品です。

1995
流動食「メイバランス」発売

主に病院、介護施設での食事代替として、栄養・機能・おいしさにこだわった流動食です。

1998
「チョコレート効果」発売

「カカオポリフェノール」の健康価値を追求。カカオの力強い香りとおくを楽しみながら、健康にアプローチした商品です。

チョコレート Since 1926
国内シェアNo.1 **24.8%**

出典：2021年度インテージ社SRIデータ

2000

2000
「明治プロビオヨーグルトLG21」発売

新たな健康価値を創造するヨーグルトとして乳酸菌の可能性を広げ、新市場を開拓しました。

2002
「明治おいしい牛乳」発売

栄養は認められていても「好き・嫌い」のある牛乳について、風味劣化をなくした「ナチュラルテイスト製法」を確立。「搾りたての生乳のおいしさ」を実現しました。

2007
キューブタイプの粉ミルク
「明治ほほえみらくらくキューブ」発売

世界初のキューブタイプの粉ミルク。従来の粉末タイプと同じ栄養機能でありながら、計量時の失敗や手間を解消した画期的な商品です。

2008
業務用クリーム「明治フレッシュクリームあじわい」発売

生乳のおいしさを濃縮した「あじわいこだわり製法」により、豊かな乳風味とすっきりした後味を実現しました。

1994
抗生物質
「メイアクト」発売

発売当初は黄色ブドウ球菌に対する抗菌力を特長としていました。その後、ペニシリン耐性肺炎球菌や耐性インフルエンザ菌に対して抗菌力を示すことが新たな特長として見出されました。現在、20以上の国と地域で販売されています。

1999
抗うつ薬「デプロメール」発売

「デプロメール」は、日本初の選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)です。

全身性抗菌剤 Since 1946
国内シェアNo.1 **19.4%**

Copyright © 2022 IQVIA.
出典：IQVIA医薬品市場統計
JPM2022年3月MATをもとに作成。
市場の範囲は当社の定義による

※ 無断転載禁止

2006
β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤
「スルバシリン静注用」発売
(注射用アンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム)

ペニシリン系抗生物質で、細菌の細胞壁合成を阻害して細菌の増殖を抑えることにより抗菌作用を示します。

2008
ジェネリック医薬品
高血圧症治療薬
「アムロジピン明治」発売

新薬開発で培った技術をベースに、利便性に優れ、高品質、安価なジェネリック医薬品の分野に進出しました。

2009
抗うつ薬
「リフレックス」発売

「リフレックス」は唯一のノルアドレナリン・特異的セロトニン作動性抗うつ薬(NaSSA)に分類されています。

2009

「明治プロビオヨーグルト R-1」発売



プロバイオティクスヨーグルトブームをけん引。6,000種類以上から選抜かれ、新しい可能性を秘めたEPS（多糖体）を産生する乳酸菌を使用しています。

2014

「明治 ザ・チョコレート」発売



「明治 ザ・チョコレート」は、カカオ豆の産地や加工方法の特徴を組み合わせることにより、深い味わいを追求したチョコレートです。

2015

「ザバスミルク
グレープフルーツ風味」発売



ミルクプロテイン（牛乳や乳製品に含まれるたんぱく質）の研究を進め開発。運動中にも飲みやすい容器で体力づくりにも有用です。

2019

「明治ほほえみ らくらくミルク」発売



日本初のスチール缶タイプの液体ミルク。「明治ほほえみ」（粉・キューブ）と同等の栄養設計を実現しました。

2020

「明治 TANPACT（タンパクト）」
シリーズ発売



現代人のたんぱく質摂取量は1950年代と同水準まで落ちています。この低栄養に関する社会課題の解決に貢献するのが「TANPACT」ブランドです。いつでも、どこでも、おいしく手軽にたんぱく質を摂取できる商品ラインアップをそろえています。

2014

血漿分画製剤
「バイクロット® 配合静注用」発売



インヒビターを有する血友病に用いるバイパス止血製剤です。希少疾病医薬品に指定されています。

2015

β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤
「タゾピペ配合静注用 明治」発売
（注射用タゾバクタム・ピペラシリン）



細菌の細胞壁合成を阻害して殺菌的に作用する抗生物質です。また、一部の細菌は抗生物質を分解する酵素（β-ラクタマーゼ）を産生しますが、この酵素を阻害する成分も含んでいます。

2016

統合失調症治療薬「シクレスト」発売

非定型抗精神病薬で有効性・安全性が確認された国内初の舌下錠です。



2016

アレルギー性疾患治療剤「ピラノア」発売

ヒスタミンH1受容体拮抗作用を有し、アレルギー性鼻炎、じんましん、皮膚のかゆみを改善します。2021年には水なしで服用可能なOD錠を発売しました。



2021

抗悪性腫瘍剤「ハイヤスタ錠」発売

再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫と再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫に効果を示す、外来がん治療に適した血液がん領域の経口剤です。



進行中の新しい取り組み

明治グループでは、「健康にアイデアを」のスローガンを具現化するべく、現在進行形でさまざまな新しい取り組みを進めています。

オープンイノベーション

アグリ・フードテックファンドに出資

明治ホールディングス（株）は、2022年3月、シンガポールのベンチャーキャピタル AgFunder Asia 社と日本でインパクト投資を行うSDGインパクトジャパン社が組成したファンドに出資しました。農業・食品分野における新進気鋭のスタートアップを投資対象とし、今後ファンドを通じてスタートアップ各社と関係構築を図り、オープンイノベーションを加速していく計画です。

カカオ細胞培養スタートアップに出資

明治ホールディングス（株）は、2021年11月、米国のカカオ細胞培養スタートアップ California Cultured 社に出資しました。今後、環境意識の高まりや技術の急速な発展により、世界の食糧生産システムが大きく変化する可能性があるなか、同社の最先端の細胞農業*技術と明治グループの持つ技術や知見を掛け合わせることで、サステナブルな原材料調達や機能性商品の共創を目指します。

※ 細胞農業：本来は動物や植物から収穫される産物について、特定の細胞を培養することで生産する方法のこと

海外展開

中国での展開商品を拡充

中国で成長するプロテイン市場、ヨーグルト市場に向けて、「ザバス」を2020年8月に、「明治プロビオヨーグルト R-1」「明治プロビオヨーグルト LG21」を2021年4月にそれぞれ発売しました。



タイでキューブタイプの粉ミルク発売

1〜3歳児に必要な栄養素の国際基準に則って設計されたキューブタイプの粉ミルク「Meiji GU FORMULA GOLD EZcube 3」を2022年2月より販売開始しました。



キューブタイプの粉ミルクに関する ダノン社との事業提携

ダノン社と進めている欧州市場での事業提携の具体的な取り組みとして、2021年3月、英国で同社の粉ミルク主力ブランド「Aptamil」のキューブタイプ商品を発売しました。



ワクチン研究開発

COVID-19 に対する不活化ワクチン KD-414

KMバイオロジクス（株）とMeiji Seika ファルマ（株）はCOVID-19に対する不活化ワクチン「KD-414」の開発を進めており、第II/III相臨床試験で有効性、安全性を確認。臨床試験の進捗などを踏まえ、可能な限り早急に承認申請する計画です。

5 種混合ワクチン KD-370

KMバイオロジクス（株）は、2022年4月に5種混合ワクチン「KD-370」を承認申請しました（国内2剤目）。KD-370が実用化されれば、小児期の予防接種回数の削減など、お子さまとご家族の負担軽減が期待されます。

アカデミアとの共同研究（オープンイノベーション）

広島大学とうつ病の新たな予防法確立に向けた共同研究を開始

Meiji Seika ファルマ（株）は、精神医学の権威である広島大学の山脇成人先生（写真左端）を中心に、感性脳科学とデジタル技術の組み合わせによる、うつ病の新たな予防法の確立を目指しています。



業務提携

（株）BiPSEE と「うつ病治療 VR 製品」の事業化へ提携

Meiji Seika ファルマ（株）は、2022年4月（株）BiPSEEが開発中の「うつ病治療 VR 製品」の事業化に関する業務提携を発表。VRによる高度な視覚シミュレーションを応用した新たな治療法の確立を目指します。

医療関係者向けに BlueDot 社レポートの提供を開始

Meiji Seika ファルマ（株）は、2021年12月医療関係者向けに、カナダBlueDot社のレポートの提供を開始しました。国内外の重要な感染症情報をタイムリーに収集・分析した大変信頼性の高いレポートです。

ペニシリン系抗菌薬の安定供給

岐阜工場でペニシリン原料の生産へ

Meiji Seika ファルマ（株）は、ペニシリン系抗菌薬の共通原料である6-APAを岐阜工場で生産する準備を進めています。この原料の国産化により、現在、海外からの供給に依存している6-APAの安定的な確保が実現できます。2025年の生産開始を目指しています。